



熱い女、ミューラルちゃん。棚江助手にニンジンをもらい落ち着くの図

小島友実の あの馬の STORY



ミューラルクラウン

一昨年の6月、1歳募集馬の評価を聞かれて馬東へ向かった時、現3歳馬の「コーラルクラウン」を「歩いた感じがいいですね」とおもて成長してくれました。笑顔で語っていました音無秀孝調教師。伯父にリーチザクラウスがいる血統で、生産牧場である社台ファームの期待も高く、1歳馬募集の段階から満点になっていた馬でした。

「(イ)」マーは昨年10月の京都芝1600m。4番手位で流れに乗る競馬で5着。初戦からの素質の上鱗を見せました。2戦目は中京の芝2000mに出走しますが終始外を回る競馬となり11着。そして3戦目は阪神のダート1800mが選択されましたが、伸びきれないの14着と大きく崩れてしましました。この時の事を音無調教師はいつ振り返ります。

「父ガホワイトマズルなので、ダートに向かいもした。でも4コーナーでもいつも行けない感じでしたからね。ダートは全然合わないところのがわかつた事が(のレースの収穫でした)」

しかしの大敗後、「コーラルクラウン」は大きな変わり身を見せます。

「3戦目の後はグリーンラッシュへ放牧に出で、中央競馬へ帰厩しましたが、体が増えて戻つてきたんですね。だからレースへ向かい田一杯、思

通りの調教が出来ました。4戦目(3月15日、中京芝1700m)は7マス14キロ4分6秒。この馬体重が本来の体なのだと感じます。ソシックが高ンタイプで、レースで後藤浩輝騎手がいの馬の特性を瞬時に見抜き、マイペースで先行してくれた事も功を奏しました。直線でもしぶりを發揮して先頭ゴールイン。マイルも合づましたね」

音無師がハシゴの高い馬と話すと、「パンクでは大抵2人引き。師や「わらし」で乗り着きが出てくれればこのやうな話してました。

この4戦目の後、厩舎で調整されて3戦目は馬房から出で、逃げ場じた。ついには馬房からの姿。担当の棚江浩治持ち乗り調教助手との事情を聞いてみます。

「普段もあはは落着せがなく、ずつと馬房に立つ嫌がることです。でもこつして一度、外に出すと納得するのか落ち着くので、一日に数回は出しますね。飼葉ぐわか~食べますが、食べた分のエネルギーをもじり発散してしまふみたい。食べれば食べれば熱くなじたか(笑)。普段の無理運動などもじたか記憶。だから、もの少し落ち着きが出てくれればいいと思いま

す。ただやつながら、逃げ前進姿勢も失われてしまつかもしないのですが、それが難しいですね。能力はある感じしますので、今後もそれを上手く發揮してくねること思っております」

一度外に出すと納得する。食べれば食べれば熱くなる。とにかく前向きなど。なんだか可愛いでありますね(笑)。「コーラルクラウンは強烈なシンナーを感じてしまう私なのでした。

この取材後、4月13日の忘れる草賞に出走した「コーラルクラウン」は8着。レース後、音無師にお話を伺いました。「競性的な問題が影響してしまって、やはり2000m以上は長かったです。今ま一一番限づレースをしたのが1600m。それから1700mの後は厩舎で調整して5月のマイル戦を目指す予定です。体重が増えてしまう、思い通りの調教ができるようかかり、今後はその辺りもボイントになるとしますね。母のコトウンブランクは古馬になり1マイルのオープンを勝つなど活躍しました。「コーラルクラウンも能力はあると感じますから、今後、マイル路線で馬の長距離をじきじきと思っています」

熱い女、「コーラルクラウン」。その情熱を走るパワーに魅かれ、マイル路線の大物になりたい事を期待してますね。応援してます!

profile

グリーンチャンネル「ブラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。